

# 日本成長の鍵、

## リープフロッグを目指せ



聞き手

倉山 満

(一般社団法人 救国シクタンク)  
所長・理事長

参議院議員 国民民主党

おおか こうへい  
大塚 耕平



大塚 耕平 氏

大塚 倉山先生は『カレント』のインタビュー  
アームもやっているんですね(笑)。

——ええ。本日もよろしくお願ひします  
(笑)。大塚先生は、なぜ政治家の道を歩ま  
れるようになったのでしょうか。

大塚 私はごく普通の家庭に生まれました。  
父は中小企業の経営者で、私は男4人兄弟の  
末っ子、ほとんど放任でした(笑)。

大学は早稲田大学政治経済学部経済学科に

入学し、当時はISLM曲線全盛期で卒論も  
ISLM分析を書きました。日本銀行に入  
りましたが、まさしくISLM分析を実践す  
る職場なので、非常に興味を持って就職しま  
した。

——日銀ってスカウトされるとお聞きしまし  
たが。

大塚 普通の企業訪問と一緒にですよ。ただ特  
殊な銀行なので、きっかけがないと就職しま  
せんね。僕の場合、大学の親しい先輩がたま  
たま声をかけてくれて面接に行った感じです。

金融市場中心の部署に長くいて、最前線で  
仕事をさせていただきました。バブル崩壊後  
は、金融機関の破綻や不良債権処理、その過  
程で起きた不祥事の調査や国会対応の仕事、  
いろいろやりました。記者クラブの面倒もみ  
たので、政治部と関わりの深い記者さんたち

ともお付き合いができました。

——2001年、参議院選挙に出馬した経緯  
をお聞かせください。

大塚 1998年に旧民主党が他の党と一緒に  
なって新民主党ができ、1998年参院選、  
2000年総選挙で議席を増やして勢いのあ  
る時期でした。2001年参議院の愛知県の  
候補者を探していると、高校の後輩の古川元  
久さんから声を掛けられました。何人かの方  
と面談をし、正式に返事をする前に中日新聞  
に書かれてしまったんです(笑)。

——(笑) 出馬のお話は奥さんに相談され  
たのですか。

大塚 新聞に出たのが11月の土曜日の朝で、  
家内に説明しなきゃいけないと思って声を掛  
けたら、「今日はSMAFのコンサートに行  
くから忙しいので後にして」と言われて  
(笑)。家内とは中学、高校の同級生で以心伝

心みたくないところもあって、要するに「好きにしたら」と言ってくれたということですね。ただ決定打は当時の日本銀行総裁、速水（優）さんのやりとりです。月曜日に総裁に呼ばれ、『怒られるんだろうな』と思ってお会いしたら、「誘われているのだったらやりなさい。これから政府と中央銀行の関係は大変な時代を迎えるので、何党であっても中央銀行出身の議員はいたほうがいい」と意外なご発言。そのうえ「僕は名古屋支店長をやっていたから豊田章一郎さんをよく知っているので、電話しておくよ」と言われ、総裁にそう言われたら『やっぱり止めておきます』とは言いにくくて（笑）。総裁室を出るときには退職が決まっていました（笑）。

土曜日の朝、中日新聞の記者をやっていた高校の同級生、バレー部のチームメイトから電話があつて、「昨日の夜、同僚から『41歳』

**大塚** 日銀の金融政策はすごく理論的に行われていると思われがちですが、実際は支店長会議の報告も総裁が何を言っているか、本店はどう言っているかということに付度している面があります。公共政策が人間的な要因に左右されると同じで、金融政策にもかなりバイアスがかかっているんです。博士論文はそのことを書いています。過去10年の経過を見ておわかりのとおり、政府と中央銀行の関係に関して、速水さんが懸念していたことが当たっちゃったわけです。

——金融政策は理論だけで動いているわけではないということですね。また、仏教三部作の宗教書も書いていますよね。さらに東久邇宮家を国会で初めて紹介されたのも大塚先生ですが、どうしてそんなに皇室、歴史、宗教、哲学と人文科学に興味を持たれたのでしょうか。

『旭丘高校出身』『日銀』に当てはまる該当者は誰かと聞かれたので『それは大塚だ』と答えておいたから新聞に出ているかもしれないぞ』と言われ、電話口で彼が新聞を確認すると「お、一面に出ているわ」と（笑）。犯人はその同級生ですね（笑）。

——（笑）。そして見事当選されました。大塚先生の見識の守備範囲は本当に無限大で、『賢い愚か者』の未来』（早稲田大学出版）という分厚い哲学書や、『公共政策としてのマクロ経済政策』（成文堂）という理論経済の専門書も出されています。

**大塚** いやいや、前者は趣味の本です（笑）。後者は博士論文ですが、そこで展開している数式は難しすぎて今ではもう作れません（笑）。

——いわゆる「政治家本」を出す出版社ではないです（笑）。

**大塚** 在職中に母校の新しい大学院ができ、そこに在籍してパブリック・チョイス（公共選択論）を本格的に勉強し、修士論文と博士論文を書きました。それが入口ですね。パブリックチョイスは人間の内面が政策決定過程にどう影響を与えるかという問題にスポットを当てています。そういう観点から人間の内面＝哲学的あるいは宗教的な思考回路、さらには人間の煩惱という視座にいきつくわけです。元々そういうことに関心があつたんだらうとは思いますが、深入りするようになったきっかけはもともと俗っぽいことでした。

私の地元の仕事所の目の前は覚王山日泰寺というお寺の参道です。その参道では毎月21日の空海の月命日に「弘法さん」と呼ばれる愛知県で一番大きい緑日が立ちます。天気がいいと10万人ぐらい来るので、そこで政治のピラを配ろうと思ったのですが、みんな受け取りません



(笑)。そこで、表面は『弘法さんかわら版』という仏教のコラム、裏面は『耕平さんかわら版』というチラシを作ったんです(笑)。これ

がウケちゃって。表面を読みたくて参拝者が取りにくるようになり、仏教コラムを書き続ける必要性に迫られ(笑)、弘法大師の生涯やお遍路の話を書くようになりました。始めて5年ぐらい経ったとき、弘法大師空海が「空海」を名乗り始めたと言われているお寺、四国の26番札所金剛頂寺の坂井智宏師という高僧が訪ねてきて「あなたは奇特なことをやっているね。応援してあげましょう」と。た

だ、坂井住職は四国の方だしなと半信半疑で(笑)。その頃は2回目の選挙の直前で、四国八十八カ所の話を書いていたんですが、選挙が終わったら得票数が88万票だったんです(笑)。さすがにドキッとしましたね。

空海の名著に『三教指帰』がありますが、極めて哲学的な内容です。空海を学べば、当然最澄に至り、さらには空海の後ろ盾の嵯峨天皇、最澄の庇護者の桓武天皇を学ぶこととなりました。必然的に天皇家に興味を抱き、そのまま芋づる式に仏教史から天皇史に深入りしていきました。

——そうしたご見識を踏まえた上で。自民党がようやく皇位継承について議論を始めました。大塚先生はどう見ていらっしゃるのかお伺いしたいです。

**大塚** 自民党で議論され始めたのは良いことですが、もうちよつと早くても良かったです

ね。かねてより申し上げているように、とにかくこの議論は静謐な中で冷静に議論をしていく必要があるのですが、まあ良い頃合だと思

います。国民民主党としてもすでに基本的な考え方は示していますが、有識者会議の3つの案(①内親王・女王が婚姻後も皇族の身分を保持する、②皇族には認められない養子縁組を可能とし、皇統に属する男系男子を皇族とすること、③皇統に属する男系男子を法律により直接皇族とすること)のうち、政府が①、②を優先して検討すること自体は是としますが、③案も検討すべきであるというのが、我々の基本的な考えです。しかるべき時期に国民民主党として意見書を出したいと思っています。

——皇籍取得は十四条違反であるという主張に対して、内閣法制局は「憲法違反でない」と国会で答弁をしました。その点への大塚先

生の見解をお伺いしたいです。

**大塚** そもそも、十四条以前に憲法には第一条があります。天皇及び皇室がどうあるかは国の根幹ですから、憲法十四条との関係だけで語るべきではないと思います。また、皇室が男系男子の伝統で今日まで来ているということの重み。これは諸外国に対して、日本という国の骨格を示す意味で極めて重要なポイントです。だからこそ、③案もフラットに取り上げるべきです。同時に、皇統史を勉強すればするほど、日本国民のすべての女性には皇族になり得る機会がある一方、男子は基本的には皇族にはなれない、ということが分かります。憲法十四条との関係や、男女平等など様々なご意見があることは承知していますが、単純な話ではない。国の骨格に関わりのあることなので、憲法違反ではないという法制局の見解に私も同意します。

## 名古屋市長選出馬表明

——名古屋市長選に関してお伺いします。どうして出馬を表明されるに至ったのか、想いをお聞かせください。

**大塚** 政治家としての最後は地元貢献したいという素直な気持ちです。首長選挙については以前から何度もお誘いを受け、2年前の市長選でも声を掛けていただいたのですが、参議院議員の任期をかなり残しての転身は無理ですとお断りしました。次の名古屋市長選挙はその点でタイミング的に問題がなく、国政で培った経験や人間関係も含めて、政令指定都市の運営を担わせていただく良いタイミングではないかと考えました。国政から市政に移るといっても、市政を担い、市政に基

点を置きながら、日本にどう貢献できるかという立場で仕事をしていきたいという思いからの決断です。

——内閣府副大臣の際、規制改革にも携わられていましたが、名古屋市において規制改革にも取り組まれますか。

**大塚** もちろん名古屋市単独で行えることはやりますよ。90年代から始まっていた構造改革特区をより上手く活用するために、内閣府副大臣のときに「国際戦略総合特区」という制度をつくったんです。規制改革を国から指示されるのではなく、各地域が各界の利害関係者をまとめて本気で取り組むならば規制改革や緩和を認めるというコンセプト、いわゆる手挙げ方式の制度です。東海地方の場合、航空宇宙産業総合特区をつくりました。自民党政権に変わって「国家戦略特区」に名前が変わり、国の意向がより強く働く仕組み、言わ

ば逆ベクトルに変わってしまい、色々な問題も起きました。そういう過去の経緯も踏まえつつ、国際戦略総合特区のことにチャレンジしたいです。まずは3つ分野を想定しています。第1は地域包括ケアシステム。これは私が厚労副大臣のときに法律を通したのですが、より先進的な成功例を名古屋で構築するために、総合特区ないしは規制改革的な取り組みを考えたいです。第2は、当然自動車やデジタル等の産業関連の特区です。第3は、技術革新や産業発展の前提となる人材育成、つまり教育に関する新しいチャレンジに資することに取り組みます。

——名古屋といえは「減税」です。ただ、減税の調査をしていると、河村市長がおこなった減税は規模が小さすぎて効果があつたのか無かつたのか分からないとされています。大塚先生の減税へのお考えはいかがでしょうか。

**大塚** 国民民主党も減税を主張していますし、政策手段としては私も減税はアリだと思っています。検討すべき課題は3点あります。1つは、所期の効果が出るか否か。議論として飛び交った減税率と、実効税率の低下率には差があります。所期の効果を明確にして、実効税率の低下率を算出し、そのうえでそれを検証することが必要です。もう一つは規模の問題です。これも想定する所期の効果あるいは目標との関係で決定していくことが肝要です。最後は、受益者です。現在の減税は相対的に高所得者層に受益が及んでいると分析されています。これも所期の効果および目標との関係で整理する必要があります。

## ジャパン・エントランス・名古屋

——名古屋市の産業をどうやって引っ張って



用して様々なイ  
ノベーションが  
起きつつありま  
す。世界はキャ  
ッチアップの時  
代ではなく、新  
たなものを先取  
りして実現する  
リープフロッグ  
(カエル飛び)

客が着るような展開にしたいですね。また、  
防災対策の面からも東京一極集中の是正は  
必須であり、名古屋は極めて重要です。  
——最後に、若者へのメッセージをお願い  
いたします。  
**大塚** 先日インドに行ってきました。13億人  
の国民のうち12億人が指紋と目の虹彩を登録  
したアードールという個人認証システムを活

いくか、そのビジョンをぜひお聞かせくださ  
い。  
**大塚** 私が日銀に入行した80年代は日本の  
半導体業界がピークの頃でした。集積回路  
を自社内で作るIMD方式、垂直統合方  
式を採用した日本の総合電機メーカーが世  
界を席巻していました。名古屋や東海地方  
には、半導体の製造装置の技術やパーツの  
関連企業が結構あります。これらをどう守  
り、育てていくかは重要なテーマです。放  
っておくと、後継者問題等から中国に買収  
されるようなケースが増えるでしょう。現  
在、半導体の趨勢に大きな影響を与えてい  
るのはスマホです。次に半導体の帰趨を決  
める分野はロボティクスです。ロボティク  
スに関わる企業も名古屋と東海地方には多  
数あります。これからの名古屋市政を担い、  
ロボティクス産業育成に注力することは、

日本の産業や経済が反転攻勢に打って出る  
ために重要な意味を持ちます。

——名古屋を点ではなく、面で捉えることも  
肝要です。2023年3月、米国タイム誌  
の「世界のすばらしい場所50選」で、日本  
は京都と名古屋が選ばれました。名古屋の  
周辺には多くの観光リソースがある上、ど  
こに行くにもアクセスがよいとの評価です。  
中部国際空港の2本目の滑走路も建設され  
ますし、リニアも通ります。タイム誌に評  
価されたのを契機に、来日するなら他地域  
へのアクセスがよく、面として観光や産業  
に見るべきものが多い名古屋を「ジャパン・  
エントランス・名古屋」通称JEN(ジェ  
ン)というコンセプトでアピールしてはど  
うかと考えています。「アイ・ラブ・NY」  
のように「アイ・ラブ・JEN」とプリン  
トしたTシャツを地元の人やインバウンド

の時代です。名古屋、東海地方、そして日本  
の若者には、世界の変化と進化の実情とスピ  
ードに関心を持ち、リープフロッグするよう  
な技術革新やビジネスにチャレンジしてほし  
いと思います。先輩世代に遠慮する必要はあ  
りません。ぜひ、頑張ってください。

■おつか・こうへい■

- 1959年 名古屋生まれ
- 1983年 早稲田大学政経学部卒業
- 日本銀行入行
- 1997年 早稲田大学大学院博士前期課程修了
- 2000年 早稲田大学大学院博士後期課程修了
- 博士号取得(学術博士)
- 2001年 参議院議員選挙初当選
- 2009年 内閣府副大臣
- 2011年 厚生労働副大臣
- 2017年 民進党代表
- 2018年 国民民主党共同代表
- 2020年 国民民主党代表代行

